

# ニホンザリガニ



## なにを食べているの？

主に落ち葉などを食べますが、ミミズなどの虫も食べます。



## どこに棲んでいるの？

北海道、東北地方北部に分布し、冷たくてきれいな水が流れる川の源流部や沢などに生息しています。普段は泥の中や木の下に隠れています。最近では開発の影響などで生息地が失われ、急速に数を減らしてしまっ

## ニホンザリガニってどんな生き物？

日本にだけ生息しているザリガニです。体長は約4～7cmで、茶色っぽい色をしています。よく見るアメリカザリガニは赤色で12～15cmになり、ニホンザリガニはアメリカザリガニと比べると一回り

# 北海道のザリガニ事情

北海道にはニホンザリガニの他に、アメリカザリガニとウチダザリガニが生息しています。どちらももともと北海道には生息していませんでしたが、アメリカザリガニは食用カエルの餌として持ち込まれていたものが逃げ出して、ウチダザリガニは食用として摩周湖に持ち込まれたものを人が別の場所へ持ち出した事で北海道にも生息するようになったと言われています。

このように、もともとはその地域にはいなかったのに、人が野外に放したり、逃げ出したりして別の地域から入ってきた動植物のことを外来種といいます。

ウチダザリガニとアメリカザリガニは外来種であり、繁殖力も強いいため、北海道の生態系のバランスを壊してしまう恐れがあります。

特にウチダザリガニはニホンザリガニに対する危険性が高いことから飼育・販売・川などへ放すことが法律で禁止されています。違反すると罰金などの罰則もあります。

### ウチダザリガニ



大きさは15cm前後。もともと棲息しているのは北アメリカですが、現在は北海道でも道東を中心に冷たい川や湖畔に棲息しています。

### アメリカザリガニ



大きさは12～15cm程度。もともと棲息しているのは南アメリカですが、現在は北海道でも温泉水の排水域など温かい水が流れる場所に棲息しています。

# コウモリ調査隊

私たちの身近に生息しているコウモリですが、まだまだ謎だらけの生き物です。札幌にはどんな種類がどのくらい棲息しているのか？1年間どんなサイクルで生活しているのか？どこにねぐらがあるのか？などを知るために、円山動物園と北海道希少生物調査会が協力して、動物園内をはじめ札幌市内の各地で調査を行っています。また、多くの方たちにコウモリについて知ってもらうために、観察会や調査報告会も行っています。

## コウモリ調査の流れ



- 1 調査を行うのはコウモリたちが活動し始める夕方から。バットディテクター※1を使ったり、糞をさがしたりして、コウモリがいそうな場所や通り道を特定する。
- 2 かすみ網※2を設置し、コウモリがかかるのを待つ。
- 3 コウモリがかかったら、体の大きさや腕の長さ、耳の大きさなどを計測し、どの種類のコウモリか、オスかメスか、おとなかこどもか、などを細かく調べる。
- 4 識別用のタグを装着し、野生に返す。

### ※1 バットディテクター

直接聞く事が出来ないコウモリが発している超音波を、わたしたちが聞こえるような音に変換してくれる機械。

### ※2 かすみ網

コウモリや鳥に気付かれないように、細い糸で作られた網。許可を受けた人しか使うことができません。

# ニホンザリガニプロジェクト

円山動物園内を流れる円山川をはじめ、円山地区では人間の生活の影響を受けてニホンザリガニが絶滅寸前となっています。このまま絶滅させてしまわないために、円山地区に残された個体や、近隣の水系の個体を利用して飼育下で数を増やし、野生に返そうという取り組みを行っています。現在は、円山地区以外の水系でも調査を実施し、札幌市内のニホンザリガニの生息状況を把握するとともに、野生復帰に向けた遺伝的な情報の収集などを行っています。

## ニホンザリガニ調査の流れ



- 1 沢の中でザリガニをつかまえる。
- 2 沢の水温や深さ、流れの速さ、周りに生えている植物やザリガニの他に発見した生き物などを記録する。
- 3 つかまえたザリガニの大きさ、重さ、オスかメスか、卵を持っているかなどを1匹ずつ調べ、記録する。
- 4 足の先端を少しだけ切ってDNAサンプルを採集し、もといた場所に返す。

### 環境をこわさないために

- 複数の沢で調査を行うときは、水の中にいる病原菌や寄生虫などを別の沢に持ち込まないように、長靴を履きかえたり、靴にカバーをしたりしています。
- ザリガニをつかまえるときは、15分程度の決められた時間内に、限られた人数で行っています。
- ザリガニを探すために移動させた岩などは、元の場所に返し、つかまえたザリガニもできるだけもといた場所にもどします。